広報 富士川

3月号

編集　富士川町役場内庶務課広報係
静岡県庵原郡富士川町
発行人　助役 中川国兵
電話 岩渕 3・120・127
印刷所　望月印刷所　電話 岩渕 304

町立第一小学校鼓笛隊練習風景

春だ、春だ。
春は鼓笛に乗って
やってきた。
ぼくは鼓笛隊の
メンバーでないけれど
リズム、リズム。
あの行進を見、
このマーチを
聞いていると
「さあ、やるぞ」
力いっぱい
叫びたくなる。
春だ、春だ。
春は鼓笛に乗って
やってきた。
山にも、川にも。
ぼくはメンバーで
ないが、
リズム、リズム
大好きだ。
あの大鼓、
あの笛、
心がおどるよ。
春は鼓笛に乗って
やってきた。

鼓笛隊訪門記

三月二日、静岡放送テレビに出演した富士川町立第一小学校鼓笛隊は、全員、画面いつぱい元気よく演奏好評をはくした。これ以前交通安全週間にちなんで町大通りを行進し、私達にその勇姿を見せたこともあり三十六年六月創設以来の短時日の間によくもまあこんなに成長したものだと驚かされた

記者は第一小を訪れ、折から校長不在のため教頭の杉山先生に面会した。先生も音楽教育面の進歩を誇りとしているふうで、早速、鈴木祟夫先生を鼓笛隊生みの親として紹介してくれた

鈴木先生は幼年の頃から音楽を好んで、小学生当時には早くもブラスバンドに参加し、長じて戦争、敗戦戦後のうるおいのない生活の中で、困難にめげず声楽を中心に勉強、音楽の生活化を一生の悲願として今日に至つている。強くて柔軟という感じのするお人柄。

鼓笛隊はフルメンバー60名で、編成はドラムメージャー1名の指揮のもと、アルトアコ1名テノールアコ1名ベルリラ1名小太鼓6名中太鼓2名大太鼓1名、たて笛46名となつている。

先生の話しによる第二小鼓笛隊のほうが歴史も古く三十五年創設、盛んに活躍しているとのこと。続いて先生は次のように語つた。

「私は三十年に第二小に赴任致しました。私の信条は先ほどお話ししましたとおり音楽の生活化をとおして子供達の情操を豊かにするために努力するということでして、着任そうそう校長はじめ諸先生とはかり生徒に健全な楽しみを与えるため、皆んなで歌を歌う、つまり合唱会をつくりました。子供達の熱意が実つて郡代表として二度静岡へ行きました。三十二年に私はこちらの小学校へ転任になりましたが、後も江口先生の適切な御指導のもと、年次、音楽教育は活発化してきていますので嬉しく思つています。

こちらへきて四年生の担任として教務につくや、たて笛を主としたリズム教育を四、五、六年を中心として指導、校長の御配慮、諸先生の御協力、関係者各位の強力なバックアップにより遂に第一小鼓笛隊の実現にこぎつけることが出来ました。

以前より、富士、吉原、沼津、清水、静岡と比べまして庵原郡は音楽の谷間といわれていましたので、私達教師は何とかしてリズム豊かな丘陵に盛上げたいと思つていました。お隣りの蒲原町東、西両校がその口火を切り、続いて富士川第二小鼓笛隊誕生、第一小…、と動きはじめてきています。

この鼓笛バンドを推進してきますと、全生徒の音楽教育面はもとより日常生活上においても活気がみなぎつてきており、好影響が観察されています。」

先生は又、記者の質問に答え、第一小、第二小両鼓笛隊の合同行進の企画を考慮中のことと、町の行事に積極的に参加したいことを明らかにした。

暖かい春のひざしに包まれた校庭に出て鼓笛隊の行進を見聞したが、胸にじーんとくる感激を覚えた。

やがて又、私達の前にその発刺とした行進を見せるだろう鼓笛隊、育ちゆく町の子弟のシンボル、鼓笛隊よ、さようなら。

渕　スイッチ

本通り 鈴木

富士川町、松野村でない富士川地区、松野地区なのだ。五年もたつ、今の五年は一昔だ、それなのにまだ元の町なり村の殻に閉じ込もろうとする様子が見られるのはどうしたわけだ。セメンダインで貼りつけた町では困る。勿論、長年月、他町村づきあいしていたのだし、人間のくせとして、つい口に出る場合はありうるのだし私はこのことを指しているのではない。いわゆる縄張り根性的考えをまな板の上にとりあげたいのだ。さて切り開いてみよう想像どおり真黒いものがある。しかし面白いことはこの魚も、悪いところばかりでなく刺身にすると案外美味なのだ。何故だろう。

「縄張り根性的考え」の中には或る種の情熱、熱意があるからだ。自分を守るだけだつたら、それこそ真黒けで全然いただけぬが、自分の周囲の人達の利益を守ろう、進歩を計ろうとする努力は、スイッチ一つで高度の愛町精神につながる

スイッチ、それは縄を張るなら見渡す限りの大平原をすつぱり入れるという考えに切替えることだ。

元の村を、元の町を愛した心、その心は尊い。その枠を拡げるだけなのだ。

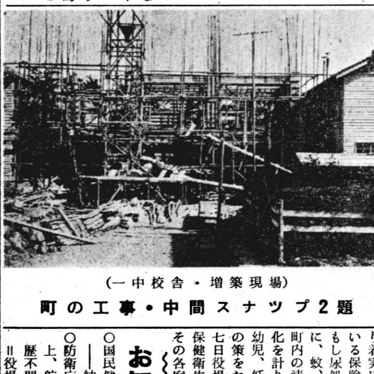
時代は恐ろしい勢いで変転していく。我が町だけラチ外というわけにいかぬ。時代感覚を絶えず学びとり必要のあるときは思いきつてスイッチ、これが肝心だ

◆車の運転・酒飲まず

新年度予算決まる 第22回町議会

三月定例町議会が十二日十九日の両日開かれ十四議案中もつとも重要な昭和三十七年度才入才出予算について慎重な検討審議が加えられた結果、新年度予算八、八一〇万円を決議した。前年度九、三八八万円と比べて五七八万円の減となつているが、前年度予算中にはし尿処理事業費約二、二〇〇万円が含まれておりこれを除外すれば、実質的には一千万円の増ということができる。

（詳報は四月号に掲載）



（一中校舎・増築現場）

し尿処理場　（右端煙突はじんあい焼却炉）

町の工事・中間スナップ2題

保、衛委員会

新年度の対策ねる

町建設五ケ年計画書どおり着実にその成果をあげている保険衛生面は、今年度もし尿処理場の建設を主軸に、蚊、蠅、ねずみの駆除町内の清掃等生活環境の美化を計り、各種伝染病、乳幼児、妊産婦に対する万全の策をたてるため、三月十七日役場会議室で開かれた保健衛生委員会をとおし、その各案を具体化した。

お知らせ欄

○国民健康保険税——納期限は3月31日。

○防衛庁より——陸上、海上、航空自衛官募集、学歴不問18〜25（問合せ先＝役場）

地味

◎先祖のみたまを祀る彼岸、手桶を下げ線香をたずさえて墓参する。爽やかさは格別。自然も、昼と夜の長さを同じくして緑りの季節を迎えようとしている◎「私の生きている意味」を考えさせられる。私の血は両親から、両親は又それぞれの両親から、その又…。私達の生命は無限数ともいえる先祖の堆積で培われた緑樹◎歯車のようにきりきり舞いして暮している毎日せめて中日一日位いは過去の人達へ感謝の念を捧げたい◎広い意味で云えば第二次世界大戦で散つた幾十万の人達も私の先祖だ◎厳寒の凍土で、焦熱の孤島で、空の果てで、或は太平洋で祖国を思い家族の安否を気づかいつつ血の涙を流して死んでいつた戦士、内地にいながら爆砕された老幼男女無数◎レジャー、ゆとりのある生活、私達は人間として楽しむ権利がある。だが暗闇から暗闇へと消えていつた人達もいたことを…◎中支で餓死した従兄、ぼた餅の、せめてこのひときれを食わせたかつた。

子供を守る交通戦士

交通防止費、新設

町では急増する交通事故に対処するため、37年度予算に交通事故防止費を新設した。これは時代の要請とも云えるものであつて安全協会、交通モニターの活動費、自動交通信号機設置のための運動推進費用として二五万円計上された。

毎朝、生徒の登校の安全を守る町民の姿が見られるが、結果的には、こうした蔭の人の努力が、無言の内に反映したことになつた。

事務改善費も

役場の事務近代化を計るため事務改善調査研究費として約五万円を計上、新年度よりの調査活動の費用に備えることになつた。

栗の子餅

釣りこまれた

「贈与税はどこへ入るか」「国！」

「事業税は」「県！」

「固定資産税は」「町！」

「酒税は」「腹！」

町長、議会で予算説明
三大事業の完成めざす

町長は議会において昭和三十七年度一般会計予算の概要を次のとおり説明した。

「才入については全体の八四%を自主財源によつて占め一応健全財政と云えますが、町有林の買却費五〇〇万円、特別交付税三〇〇万円、町債一〇〇万円と、今後の一層の努力を要求される財源を含んでおることは考慮されなければならない。才入総額の七二%を占める町税は自然増収を見込んで前年度当初予算より七八九万円の増として計上してあります。町民税は新らしい課税方式となり国税の減税の影響により昨年度より以上の増収は期待できず固定資産税・軽自動車税は自然増収のみで、電気ガス税は税率の改正により一割の減収、加えて紙パルプ等の非課税範囲が拡大され、自然増収を見込んで、どうやら昨年度並に揃うという程度、又その返り財源として煙草消費税の税率があがり一割の増収とはなりますが自然増収を除き前年度より約四〇万円の増加を見るにすぎず今回の税法の改正は、当町にとつては約一〇〇万円～一五〇万円の実質的減収をもたらしたと云えます。

依存財源である国、県補助金、寄附金は収入確実なものを計上し、使用料、手数料についても現行どおりの料金にもとずいてその財源を見込んだ次第です。

才出については、投資的経費の五割を前年度よりの継続事業であるし尿処理施設、一中増築、町道富士見橋線の三大事業完成のために傾注しております。

経費別に分けますと、消費的経費は五、三二九万円六〇、五%を占め前年度に比し六八八万円の増となつております。この内人件費は三〇、四%で二、六七四万円、昨年度に比し三五二万円の増で、物件費は三〇、一%で二、六五四万円、昨年度に比し三三六万円の増加を示しています。これは各種委員の費用弁償の引上、物価の値上り、その他の義務的経費を含む需要費の増によるもので、各種の負担金については昨年より極力抑制に努めました。

投資的経費は三、二七三万円、三七、二%で昨年度より一、二五七万円の減となつていますが前年度と本年度のし尿処理事業費を相殺して比較すると実質においては三二六万円の事業費増となるものと思います。

富士見橋線を含む町道各路線及び橋梁の新設改修等一般土木事業に八三一万円、一中増築事業並びに小中学校の教科内容充実費に六三九万円、し尿処理施設三町負担金として六六二万円、前年国庫補助の対象外となつたため本年に繰越しとなつた五分団に配属する自動車ポンプ一台の購入費並びに防火水槽新設等消防施設整備事業に三三三万円、農林道、かんがい排水路改修等土地改良事業に二〇四万円、その他一一七万円となり、他会計への繰出金は昨年より五〇万円減じ四九五万円とした次第であります

尚財源の見合いにより県道富士川万沢線拡張舗装事業の県道工事負担金二五九万円二中旧校舎の移転費その他土木、土地改良事業について、各地域の強い要望にもかかわらず予算化できなかつたことについては、今後財政の許す限り善処してゆく所存であります。

なお本年度の特殊な事業として、河川費、老人福祉費交通事故防止費、事務改善調査研究費を新設しました」

◆防止・未成年の飲酒

役場に自治大学
全国初の試み

一週間に一度、仕事の終つた後の一時間を、各職務の基礎的学習に充て、職員の質をより以上高めようと県下、いや全国の市町村役場でも初の試みが実行に移された。

自治大学講座として三月六日に開講され十三日に二回目の講習が開かれた。講師は町長など三役、各課長主任で生徒は全職員である各講師のふなれながらも真剣な説明と、生徒のしんみような聴講態度、熱心な質問など、ほほえましい教室風景が見られ、富士川町役場、健全なりという感を深くした。

創意に満ちた考えのもとに行われているこの努力は将来、大きくものを云うこととなろう。

八月に一応、前期を終わり終了証書も手渡される。

―声―

無線広報、日頃の御活躍感謝しております。

ただ夜8時30分のお休みの放送は、幼児のある私達にとつて何とかしていただきたい番組です。ちようど寝ついた時分に夜間ではあるし、非常に大きく音がしますので目を覚ましてしまうのです。勿論これは自分勝手なことで、多くの町民の方々が一向差支えない、お休み番組を続けてほしいというのでしたら、それでよろしいのですが、とにかく一町民の無線広報に対する意見として一筆投書しました。御参考にしてください。

（一主婦）

お答え

町の広報の指針としては昨年四月に集計した町民の広報全般に対するアンケートがあり、広報ふじかわ、無線放送、回覧広報運営に役立たせております。

この中で無線放送は時間がわかつて都合よいという答えが七八・二%にものぼつており、これは時計があり、ラジオ、テレビがあつても、一日の区切、区切りを自然の内に承知することができる利点を支持していることと解釈しております一年前のアンケートですので、近々第二回のアンケートをとるつもりですが、今現在ではこの資料で得られた町民の声の多数意見を採用していくのが妥当であると考えます。

そこで今より音楽の響きが柔かいものを選曲するという技術的な面であなたの要望にお答えし、四月より実施したいと思います。

役場　中川助役

改正住民税を研究
納税委員会

三月三日、役場会議室で納税委員会が開かれた。町民税、固定資産の評価替え、国民健康保険税などについて当局側より説明があり、協力を求められた。納税委員各氏は、とくに改正住民税について注意を払い真剣にメモをとつていた。

人の流れ
（敬称略）

祝結婚

区名	新郎	新婦	旧姓
室野	谷津倉逸巳	佳子	石川
新四	内野智由	米子	佐野
新四	益木桑太郎	延子	佐伯

祝誕生

区名	氏名	保護者	続柄
木島	曽我あずさ	陽一	長女
室野	望月成晃	義康	長男
舟山	斎藤良美	初男	二女
上町	中村高規	昇	長男
上町	勝田耕一	貞男	長男
旭町	望月克美	保雄	長男
川坂	木村富美	健次郎	二女
堺町	若月登美子	金三郎	長女
新町	星野　功	芳雄	三男
新町	白岩優子	康男	長女
新四	渡辺　出	満三	長男
新四	野沢健司	武	長男
新四	渡辺輝子	実	長女
新四	清　薫	武雄	長男
新四	斎藤記代	清太郎	二女
本一	松永英治	茂	長男
本四	宇佐美彰	英一	二男
東一	山田直人	芳夫	長男
東一	白井千晶	和夫	二女
東二	石原清一	理一	長男
東二	今井　浩	一市	長男
根方	鈴木政彦	勝夫	長男
市場	鈴木博之	嘉造	長男
粒良野	稲葉洋子	孝一	長女
半在家	天野俊彦	博	長男
辻	鈴木幸博	幸雄	長男

転出した人

区名	氏名	転出先
木島	松下もり江	富士市
新四	森中許子	由比町
宮町	山田芳子	富士市
東一	泊　久江	鷹岡町
市場	小林利明	神奈川県
新井	望月幸江	東京都
原方	稲葉文代	富士市
清水	小池トラコ	富士宮市
道上	石川　杲	三重県
堀之内	宇佐美綾子	吉原市

祈冥福

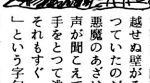
区名	氏名	年令
木島	佐藤養一	八
舟山	望月明信	七七
新四	保坂きさ	七一
新四	真野幸子	五六
根方	小林勘次郎	七七
市場	渡辺慶作	五九
新井	清水繁太郎	七二
水ノ口	上野秋義	五八
原方	望月古寿	六六
大北	佐野浅次郎	八〇

町の昔ばなし
描き染め　舟山心中
その三

幕府御用米、薪炭、干ししいたけなどの甲州物産は岩を噛む急流に任せて次々に到着。塩、干魚などの物資は駿河湾から吹き寄せる風で帆をはらませてか、或は「えい、えい」と舟人（ふなんど）衆が岸に沿つて引張りあげる方法かにより鰍沢へと運ばれていく。

舟運は栄え、舟人衆の体力や機敏さが岩渕の宿場の賑やかな話題になつていた

倉はその白い壁を川面に映して立並び、宵になるとあちこちの舟人宿や小料理店のあんどんにも燈火がついて、さんざめく声－どなり、唄い、笑う人間臭さが地三味線の音律に混つてただよつた。



舟山にある雑穀屋の三男、仙次、通称舟山の仙は、しなやかな体つき、まるでむちのような感じのする男だ。年令二十六、両親の反対をよそに舟人稼業も足掛け五年になる

矢のようにつつぱしる降り舟の操作にも頭角を表わし、喧嘩のさばきも胸のすくような味をみせた。だが寡黙、陰影濃く、その性格からか兄イとして慕われるよりも孤独を選んでいた。

そんな仙次にとつておしんは恋人であるばかりでなく、愛情のよりどころであり彼の魂の安息所、唯一無二の存在になつていた。娘の十八、色はこぼれるばかりでひたすら仙次に思いを寄せていたおしんは、仙次の遠くを見る横顔がことさら好きだつた。下屋敷の茂兵衛の次女、うるんだ切長の目、豊かな美しい娘だ。

二月のはじめ、茂兵衛が姉娘のときのように、自分の意志で家格に合つた嫁ぎ先を物色、決定したことを知つたとき、おしんはくら〳〵する衝撃を感じ、怒り嘆いた。それでも姉と違つて自分の道を自分で選ぼうとする気持の強い彼女は、母親を通じて「それは死ねとおつしやることだわ」と伝えたのだが、すべて徒労に終つた。虚ろな瞳で震えている姿は哀れだつた。

…

たまりにつながれた舟の列、鮎のようなすらりとした姿態を連ねて憩つている

「お母さんにも云わず夢中で出てきたの、ただあなたに会いたくつて」

仙次は以前からこういう場面を予感していたが、そのつど、つきつめた考えを避けてきた。何とかなるだろうと送つてきた月日だつたが遂にきたんだ。

愛し愛される喜びに浸つていた目前に越すに越せぬ壁がそそり立つていたのだ。

悪魔のあざけり笑う声が聞こえてくる。

手をとつて逃げる、それもすぐ「不可能」という字句に結びついて消えざるを得なかつた。のたうち廻る片隅で、しかしそうなるのがおしんのためだと説得しようかとも思つたがむなしかつた。

「おしん」

男は人間の最期の声で叫んだ。「俺と死ね、死ぬんだ」

しとど濡れている頬が月のあかりできらりと光つた

夜、富士を見ると幸せをもたらすと云い伝えられているが、いま、まざ〳〵と二人はその雪の肌を見た。

前面、富士川はたゆとうなく流れ、そのせゝらぎはあたりを征して、男女二人の決意を誘つた。

「三吉だな、川ばかばやしだ。歌つているなあ、明日は、あいつは林蔵の荷宰領か」仙次はつぶやいた。

むせび泣くその哀歌の調子は二人の胸を打つた。